

研推だより No.6

令和5年
4月26日
研究推進部

忙しい4月もいつの間にか最終週になりました。「あっという間だった」という方、「意外と長かったな〜」という方、様々でしょうか。ここからは運動会の練習も始まりさらに忙しくなります。何もこんな時期に運動会まで・・・と思われる先生もいらっしゃるかもしれませんが、**考え方によっては、その分予定に空きができる期間が出てきます。できない理由を探すのではなく、できる方法をみんなで考えながら前向きに取り組んでいきたいですね！**

さて、校内研究もこれから分科会を決め、目指す児童像やそのための手立ての検討に入っていきます。今年度は、研究の動力源になる「同僚性の構築」をいつにも増して大切にして取り組んでいきたいと思って取り組んでいます。そのため実際に授業をされる先生方の御意向も伺いながら分科会を決めたいと思っていましたので、決めるまでに少し時間がかかっていますが、その分できる限り授業や研究への意欲が向く形でスタートを切っていきます。今回の全体会が終わった時には、**実際にご自身が授業をされる際の具体的なイメージをもって終えられるような会にしたい**と思っています。どうぞよろしくお願ひします。

1 第2回 研究全体会次第

<第2回 研究全体会>

日時：令和5年4月26日（水）

場所：視聴覚室

1. 校長先生からのお話（校長先生）
2. 協議

いつもと場所が
異なります。
御確認下さい

- ①（続）研究の概要 ～三小の研究って？実務的な内容編～
・実践による検証 ・成果物 ・研究発表

②トークタイム

～みんなで話し合おう「こんな子供・授業を目指そう」～

③作業部会発足！

・各部会ごとの作業確認 ・年間の予定 ・役割分担

3. 終わりの言葉（副校長先生）



2 (続) 研究の概要 ～三小の研究って？実務的な内容編～

今年度の研究で取り組むことは3つ！

実践による検証 成果物の作成 研究発表会

R5研究発表会までのスケジュール(概要)



実践による検証

① 思考×場面(導入)

- ・教師の発問による児童の気付き
- ・学習問題(資料)との出会いによる思考開始
(どのように、どうやって)
「どうしてだろう」

目指す児童像

問いをもち、
自ら解決しようと進んで考える児童

② 思考×方法(追究)

- ・比べることで整理する
- ・混在する断片的知識を取捨選択する思考
- ・様々な思考法の積み重ねによる習得と活用
- ・目的をもった意図的な思考による整理
「表にしてみよう」

目指す児童像

自分の考えを意図的に
整理して考えることができる児童

③ 表現×場面

- ・外部とのつながり、必然性
- ・「外部の方×外部の方×自分たち」のような
多様な立場での話合い

目指す児童像

表現したことから気付きが生まれて、
自ら解決しようとする児童

④ 表現×方法

- ・児童自身が表現方法の選択肢をもつ
- ・学習内容や学習方法のふり返りによる認知

目指す児童像

目的や相手に合わせて適切な内容や方法で
自分の考えを表すことができる児童

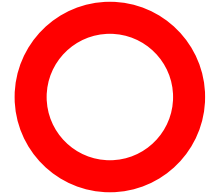


話題提案授業の持ち方

「参観者が学ぶために、授業者が話題を提案する授業」へ

「どこがよくなかった。もっとこうすればよい」

「自分だったらこうやってみようかな」



- ・授業の教科は決めない。手立てに沿った話題を協議の中心に
- ・**A 授業** 各分科会から1回ずつで年間4回（以上）の授業（講師あり）
- ・**B 授業** 特に回数の指定をせず、授業時間内で行う授業（講師なし）
→放課後に録画したビデオをもとに校内教職員で協議会を行う

成果物の作成

1. 研究紀要

2. リーフレット(研究発表用)

研究の大まかな概要が分かるリーフレット（A3版裏表サイズ）。研究発表会で配布する。参観者が開いて内容がサッとつかめるように大切な部分をピックアップし、紙面の構成も考えて作成する。

3. 研究発表会当日の指導案集 ※QRコード生成

発表会当日の指導案集。研推から提案する様式に則って全校共通の枠組みで作成する。研究発表会で配布。本時案を中心に、特記事項は校内研究に関わるものに絞ってシンプルで見やすいものになるようにする。

4. ICTまるわかりブック(仮題) ※QRコード生成

ICTの研究3年間の実践を取りまとめた冊子を作成する。一実践でA4サイズに1ページ（様式は研推より提案）。

5. TTTスキル系統シート(仮題) ※QRコード生成

ICTに関わる児童の活用スキルを1年～6年まで系統的にまとめたシートを作成する。昨年度までにできているものに他校のものも参考にした形で作成し、今年度の取組をフィードバックして加除修正を行う。研究発表会で配布する。

研究発表会

東久留米市立第三小学校 令和5年度 東久留米市教育委員会 研究推進校

研究発表会実施案 [概要版] Ver.1.0

研究主題

思考したことを豊かに表現する児童の育成 ～ICT 機器の効果的な活用を通して～

1月25日(木)13:30～提案・授業・協議・講演

達の研究を発表する価値、それは

ICTの活用

の仕方を下記のように示すこと

簡単・シンプル

各教科の授業の中で、ICTが誰でも手軽に活用できることを示す

研究の汎用性

児童の変容

ICTの効果的な活用で、研究発足前後での児童の成長や課題改善した姿を示す

研究の有用性

参加・体験

ICTの活用が、「参観者の考えをアウトプットする場」の可能性を広げることが示す

研究の応用性

当日の流れ 提案→授業→協議→講演で参会者の参加意識も高まる！

13:00	受付開始	・受付後、体育館へ誘導 ・スクリーンに発表会全体の予定を表示	参加者に事前アンケートを配付し、QRコードからICT活用に関わる日頃の興味を集約。
13:30	全体会Ⅰ	・開会行事 ・基調提案（研究主任、研究副主任）	授業前に研究の概要を説明し、参観者が授業を見る視点をもって臨めるようにする。
13:50	授業公開	・全学級授業公開	ICTを活用している、もしくはICTを含めた表現方法を選択・判断している本時を公開。
14:45	提案	・分科会ごとに各教室で提案 ・参加者が意見を言え、交流できる場に	提案は手立てとその効果を中心に、参加者が小グループ等で意見交流ができるようにする。
15:45	全体会Ⅱ	・シンポジウム（石出先生、ほか） 「ICTを活用した令和型授業デザインの創造」（仮）	公開授業を材料に、テキストマイニングを活用して参観者の関心と関連付けながら。
16:30			

3 作業部会の概要

作業部会

研究内容の充実を図る取組や、
研究発表会に向けた諸準備を行う。

環境部会	渉外推進部会	成果物作成部会	プレゼン部会
松家、渡部、	水流、	松澤、本田、森重、	松田、山岸、
学習環境の周知・校内掲示板や教室内掲示提案と管理	保護者や地域等外部と連携した取組の計画と実施・発信	研究のとりまとめとして研究紀要やリーフレット等の作成計画提案	研究発表会に向けた基調提案と分科会提案のとりまとめ

低中高専それぞれが、4つの部会に分かれて所属する